

平成26年度 大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会 議事録

日時 : 平成26年7月17日(木) 10:00~12:00
場所 : 島根県民会館 大会議室

■開会挨拶

開催にあたり、国土交通省出雲河川事務所長より挨拶。

■委員紹介

協議会委員の紹介。(委員紹介は、出席者名簿および席次表により各委員の紹介とした)。

■協議会規約について

※説明資料：資料－1

協議会規約の変更箇所について説明。

(規約本文の変更箇所なし。学識委員の所属欄及び行政委員・オブザーバーの氏名の変更を説明)。

■会長挨拶

- 昨今、異常気象に伴い気象条件も変わってきている。そのような状況も踏まえ中海、宍道湖の環境について議論して頂きたい。
- 大橋川改修事業の際には、環境に対する負荷を小さくするためにどうすればよいのか。調査の結果についてチェックして頂き、意見を頂戴するのがこの会なので忌憚のないご意見を頂きたい。

■広域モニタリング・環境監視について

※説明資料：資料－2

事務局より、広域モニタリング・環境監視について説明。

【中村 学識委員】

- ヤマトシジミとホトトギスの環境監視について、ヤマトシジミの関係を重視しているのであれば、シジミの生息の多い場所である漁場で検討しないと把握できないのではないのか。漁業者にとっては、漁場でホトトギスが増えると困るため採取する地点について考慮していただきたい。

【事務局】

- ◆塩分の変動は最深部が一番影響を受けるため、最深部での調査を行っている。

【中村 学識委員】

- 大橋川でもシジミが沢山採取できる最深部は、比較的シジミがない場所である。漁業者にとっては、大橋川の中の浅い箇所が重要になってくる。やはり、シジミの漁場を考慮して調査するべきではないのか。

【事務局】

- ◆先生のご意見を踏まえて検討して参りたい。

【檜谷 学識委員】

- モニタリング計画書のP 1 1の調査項目では、底質調査は宍道湖湖心と中海湖心で実施することになっているが、平成25年モニタリング結果（参考資料）P 1 2 8では、平成25年度は調査なしの記載がある。どちらが正しいのか。
- 平成25年度モニタリング結果（参考資料）P 1 3 4弓浜半島の平成25年度5月のデータが若干従来と違うような動きをしているが原因等は何か。

【事務局】

- ◆底質調査について確認後、先生方にご報告する。
- ◆地下水位については、連続で測定しており、ロガーを回収して解析しているが、一部スパイク的なデータが入ることがある。このことを考慮していなかった可能性があるの確認して、削除すべきデータであれば修正する。

【倉田 学識委員】

- ここ数年で海水面の変動がすごく上がっており、宍道湖の水位も上がっている。外潮位が上がることで全体的に底上げされている影響が出ているように思われる。
- 平成25年度モニタリング結果（参考資料）P 1 4 7の流量、平成25年の前半、降水量が少ない結果だが、遡上の月最大の量が多くなっている。月平均はそれほど多くなっていないが、遡上・月最大の3、4、5月は特に大きい。
- 平成25年度モニタリング結果（参考資料）P 1 5 9の塩分フラックスについても同様に海面の変動によって敏感になっていることは間違いないと考えられる。
- 以上より、元々の前提であったシミュレーションに影響してくると思う。おそらく環境検討委員会のときでも極端な例でシミュレーションしていると思うが、そのときの想定を超える状況になっているので再検討の必要があると思う。

【道上会長】

- 直接工事とは関係のない話ですが、気象条件が変化している中、宍道湖・中海にどういう影響を与えるかについては、観測、検討してください。

【事務局】

- ◆水位があがっている状況については、湧水傾向や外潮位が上がっていることが起因していると考えられますが、先生のご指摘を踏まえた上で再度確認する。

【北村 学識委員】

- 弓浜半島の地下水の塩分濃度について、事前に生データをいただいたが、以前のデータはパーツ・パー・サウザンド(ppm)、いわゆるグラム/リッター ($g L^{-1}$) 単位で整理されてきている。その場合、ほとんどゼロに近い値になる。だが、生データを使用してミリグラム/リッター ($mg L^{-1}$) 単位で整理すると、塩分濃度としては農作物に影響が及びそうな範囲であったため、今までのデータをミリグラム/リッター ($mg L^{-1}$) 単位で整理しなおして頂きたい。

【事務局】

- ◆了解した。

■環境保全措置について

※説明資料：資料－3

事務局より工事モニタリングについて説明。

【越川 学識委員】

- いろいろな移植試験を行っており、順調に推移しているようだが、特にヨシやコアマモなどが野生生物の生息環境となっているかどうかの調査や計画の予定はあるのか。

【事務局】

- ◆ヨシ群落はサシガメの生息環境になるので、目視観察しているが、環境として適しているかについては、平成23年2月のモニタリング計画に位置づけられておりません。ヨシ等が復元されれば生息環境の保全措置はできていると考えている。

【越川 学識委員】

- 汽水環境に普通に生息している生き物（小魚、貝類、甲殻類など）が、移植先に棲みついているかどうか、調査することは出来ないのか。

【事務局】

- ◆モニタリング計画にはありませんが、ご相談、ご指導を受けながら検討を行う。

【道上会長】

- 最終的にヨシやコアマモ等を報告する際に、生物にとっての環境も合わせて報告いただきたい。
- ヒトハリザトウムシはどのような手法で運んだのか。
- 運搬後の生息状況はどうか。

【事務局】

- ◆資料-3のP5のとおり、もともと生息していた寄州、追子で捕まえたものをクーラーボックスに入れて、福富で放している。運搬した数量は230個体で、昨年度は58個体しか確認できていないが、広範囲に個体数もいるため、現時点では生息環境として成り得ていると考えている。

【倉田 学識委員】

- 環境モニタリング計画書P4のムシヤドリカワザンショウガイ、ヨシダカワザンショウガイの環境保全措置についてのデータがないが状況はどうなっているのか。
- 追子の移植されたヨシの場所を船の上から遠目で確認したが、ヨシでないものが多く、国井委員も指摘している。もう一度現場を確認していただきたい。

【事務局】

- ◆2つの貝につきましては、追子に在る想定で計画書に書いてあるが、工事する際に確認出来なかったため、移植自体を行っておらず、保全措置に関する報告は今回ない。
- ◆追子地区のヨシについては、今後も、現地を確認していきます。

【中村 学識委員】

- シジミの生息や他の魚介類について工事の影響を受けるのかを広く関係者と協議して工事していただきたい。

【事務局】

- ◆漁協及び関係機関の方を含めて、引き続き工事内容を説明しながら進めていこうと考えている。

【道上会長】

- 関係機関との議論内容が反映されているか確認するためにも報告して欲しい。

【事務局】

- ◆対応する。

【清家 学識委員】

- 宍道湖湖心のデータですが、故障しているのか確認できない状態だったので、欠測のないようお願いしたい。
- 宍道湖湖心の底層の塩分と DO が重要で夏に向けて、硫化水素の生成につながる時期なので都度確認させて頂いている。
- 青潮の発生についても、解析する際に重要なデータになる

【事務局】

- ◆現在、正常に計測しており、点検中の可能性がある。先生の指摘とおおり、確実にデータがとれる体制を整える。

【中村 学識委員】

- 今大橋川、剣先川で異常に糸状藻類、シオグサが繁殖しており、シジミの繁殖や資源に非常に大きな影響を与えるため、シオグサに対して調査、対策を検討していただきたい。

【事務局】

- ◆糸状藻類については、別個に対策会議を設けており、関係機関と連携して取り組んでいる。

【中村 学識委員】

- できれば、モニタリング検討委員会でも検討していただきたい。

【舛田 行政委員】

- 今のご指摘は大橋川の改修事業をやる、あるいはやったことで糸状藻類に影響するということか。

【道上会長】

- 工事とは直接関係ないため、ここで議論することは難しいかもしれませんが、報告していただきたい。

【道上会長】

- 様々なご意見をいただき、有意義な議論ができた。
事務局は、これらの意見を反映しながら今後の対応を進めていただきたい。

【事務局】

- ◆今回の協議会で提示した資料については、協議会終了後、速やかに出雲河川事務所のウェブサイトで公開する。
- ◆次回の協議会については平成27年7月頃を目途に開催予定である。